

令和2年度第1回「防府市農林業政策懇話会」 議事録等

■開催日時・場所

令和2年12月21日（月）午後3時から午後4時30分まで
防府市役所1号館3階南北会議室

■次第

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 主要事業等に関する情報提供
 - (1) 「防府市農林業政策懇話会」での意見等について
 - (2) 「農林業の知と技の拠点」の形成について
- 4 防府市の農林業を活性化する提案等について

■配布資料

	資料名	番号
1	防府市農林業政策懇話会委員等出席者名簿	【資料1】
2	防府市農林業政策懇話会配席図	【資料2】
3	「防府市農林業政策懇話会」での意見等一覧	【資料3】
4	意見及び提言を踏まえ事業化した取組等一覧	【資料4】
5	意見及び提言を踏まえ事業化した取組等（主要事業抜粋）	【資料5】
6	令和2年度 補正予算による新型コロナウイルス感染症対策及びトビイロウンカ等の水稻被害対策	【資料6】
7	「農林業の知と技の拠点」における重点取組方針（素案）	【資料7】
8	第5次防府市総合計画（素案）	【資料8】

■出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田 豊	市長	出席
農林業関係団体	吉武 恭紀	山口県農業協同組合防府とくち統括本部長	出席
	山本 秀生	山口県中央森林組合 組合長	出席
	藤井 伸昌	防府市農業委員会 会長	欠席
	原田 慎司	山口県農協青壮年部 副委員長	出席
流通関係団体	吉武 健志	(株)ユアーズバリュー代表取締役社長	出席
	荒瀬 正則	防府市野菜出荷組合 組合長	出席
農業関係者	岡本 拓実	(株)ファーム大道 代表取締役社長	出席
	矢部 洋子	施設野菜	出席
	吉次 英哲	果樹	出席
	柳 俊則	花き	欠席
	池田 英雄	畜産	出席
	阿部 幹恵	防府市生活改善実行グループ連絡協議会 会長	出席
公募委員	中山 博祐		出席
	蓑島 啓子		出席
山口県	秋津 勉	山口県農林水産部農林水産政策課企画調整班 研究戦略グループ 主査 (グループリーダー)	
	木村 晃司	山口県農林水産部農林水産政策課企画調整班 研究戦略グループ 主査	
事務局	熊野 博之	産業振興部 部長	
	藤井 一郎	産業振興部 部次長	
	藤井 正明	産業振興部 部次長 (兼) 農林業の知と技の拠点連携推進室 室長 (兼) 農林水産振興課 課長	
	池田 晶則	産業振興部農林漁港整備課 課長 (兼) 農林業の知と技の拠点連携推進室 室次長	
	藤本 奉文	農林業の知と技の拠点連携推進室 室次長補佐	

■会議録

1. 開 会

2. 市長挨拶

本日の懇話会は、前任委員の任期満了に伴い、新たな委員に御参加いただいている。

これまでも懇話会でいただいたご意見について、可能なものは予算等に反映させてきたところ。こうした中、今年は新型コロナウイルスが各方面に影響を及ぼし大変な一年であったと感じている。

委員の皆様におかれては、そういう中にあっても市民の皆様に新鮮で安全な生産物をお届けしなければいけないという使命であったと思う。

また、今年はトビイロウンカや台風による潮風害により作況指数が山口県で7.3となり、特に防府市を含む県西部地区については作況指数6.7と、過去最低を大幅に更新した。

私は、このような状況を受け、水稻農家の生産意欲を喚起する必要があると考え、12月市議会に補正予算案を計上し、次期作に向けた主食用米の種子購入費用を支援することとしている。

これから来年度の当初予算編成を行うが、農家の方々がしっかり前を向ける予算を編成し、支援したい。

さて、明るい話題といえば、華城春菊の出荷が開始されたことや、天神みかんの新たな取組として、5個入りの贈答用パックの販売を開始したところ。昨日開催された読売マラソンでお渡しした方にも大変喜ばれた。

林業の分野では、今年の7月から森林環境譲与税を活用し、県産木材を使用した積木を、1歳6か月を迎えたお子様へお配りする事業を開始し、市内42の保育園などにも先週から随時お届けしている。

さて、この懇話会を始めるきっかけとなった、牟礼の農業大学校に、山口市大内の農業試験場と山口市宮野の林業指導センターを統合して、新たな拠点を形成するという「農林業の知と技の拠点」については、令和5年4月のオープンに向け、工事も始まっている。新たに土地利用型の新しい学科を設置するという計画もあり、そういったものも活かし、市としてもいろいろな対策を行っていかないといけない。

また、農道牟礼小野線が令和7年には完成する見込みとなっており、国道2号の富海拡幅事業4車線化に併せて開通すると、小野の農業も変わっていくのではないかと考えている。

また、ほ場整備等もしっかりと進めていきたいと思っている。

本日は、新たな委員の皆様の意見をしっかりお聞きしたい。

コロナ対策もしっかり進めながら新たな農林業の対策も講じなければいけない重要な予算編成に向け、市の総合計画も新たにスタートとするので、それに相応しいものとなるようにしっかり取り組んでいきたいと思う。本日は忌憚のない意見を願います。

3. 委員紹介

(事務局から委員の紹介)

4. 主要事業等に関する情報提供

(1) 「防府市農林業政策懇話会」での意見等について

・事務局から資料3～6及び資料8について一括説明

(2) 「農林業の知と技の拠点」の形成について

・山口県農林水産部農林水産政策課から資料7について説明

5. 各委員による意見

会長

前回までの懇話会の意見等と、県から農林業の知と技の拠点の現状について報告があったが、皆様に意見をお伺いしたい。いただいた意見を参考に、市の施策に活かしているものは取り組んでいきたいと考えている。また、農林業の知と技の拠点を活用してどのようにしたらよいのかという事も参考にさせていただく。いただいた意見に対し本日すぐに回答という事は難しいが、しっかりお聞きし参考にさせていただく。

さて、今年度のトビイロウンカや新型コロナウイルスについてA委員さんに意見をお願いしたい。

A委員

ウンカの被害ということであれば、今年度当初計画の約5割弱という米の出荷率。一等米比率もかなり下がっている状況。市長の挨拶にもあったように、来年度の種子購入の補填を12月の補正予算で予定されているということ、また、来年度予算でも対応される予定ということだが、そのような支援はとにかく早めに対策していただけると農家も安心して来年度のお米作りができる。

会長

今年の作況指数67というのは、私も9月頃から地域を回ってみてすごく気になっていた。12月補正予算で対応させていただく予定だが、来年度のこともJAさんなどにご相談させていただき、技術指導などと併せた取組としていきたい。

その他に何か、水稻の話がありましたら、B委員いかがですか。

B委員

私の地域は、ウンカの被害より塩害の被害が大きかった。当時の写真を持ってきたのを見ていただきたいが、海の近くにほ場があるため、堤防を越えて潮がかかってしまふ。佐波川から水をもらっているが、専用水路があれば、早く作付けすることができる

ので、台風の被害が少しでも軽減される。検討いただけると助かる。

会長

今回の水稲被害は、トビイロウンカに加えて、潮の被害が非常に大きい。防府市は海に面しているのので、古くは昭和62年の台風12号や平成3年の台風19号、平成11年の台風18号など、過去にも大きな影響を受けている。今、ご提案いただいた専用水路の設置というのはすぐにはなかなかいかないが、長期的に土地利用型の農業が持続できるように考えていかないといけない。

その他、水稲の関係で何かあるか。

C委員

資料7の3ページにあるように、農大で新たに土地利用学科を設置されるということで、やっと米のほうに目を向けていただけたかなと安堵している。今後、この学科に入った学生の中から、親元や法人への就職以外に、自分でやってみたいという学生が出てくると思うので、新規就農者が米を作ることができるような体制を市でどうにか作っていただきたいと思う。

私自身は、市内で野菜を作り、米は作っていないが、防府の農業、日本の農業を考えてみるとやっぱり米を作っていかなければと感じている。

会長

私は防府市で土地利用型の農業を支えたいとずっと申ししてきた。そうした中で、今回、県の農林業の知と技の拠点で土地利用学科が設置されるということで、しっかり連携して、防府市に活かされるように検討していきたい。

D委員

今年度のウンカや台風被害に対する水稲種子の支援については大変ありがたいと思う。しかし、新規就農者や大規模農家とは違い、ご高齢の方や兼業農家の方は、本来に来年にでも農業をやめようという方も現実としていると思う。そのような方は体力的にもきつい部分があると思うが、機械を維持していくことがとても大変だと思う。今年度は玉葱機械のレンタル事業について新たに予算を組んでいただいているが、土地利用型や露地野菜でも使用できる農機レンタルにも踏み込んでもらいたい。

もう一点、私は今、山口県農協青壮年部で、ポリシーブックの取組を進めている。どういったものかというと、地域での営農の課題解決のための取組をまとめたもの。その中には政策提言や、組織を改善していくための話も含まれている。そういったものを新たに改訂して、防府市でもその取組を進めていきたいと考えている。

会長

農機具レンタルの話があったが、今年は玉葱の事業をスタートした。まずはその制度を固め、その状況を見ながら、拡大できるか検討させていただきたい。

E委員

私はサラリーマンの家庭で育ったので、農業振興とはあまり関係ないが、料理が好きで、消費者としてこの懇話会に参加している。ブランド化の事で少し尋ねたいことがある。防府市のブランドみかんで天神みかんがあると思うが、市内でも知らない人が多

い。せっかく良いブランドを作っているのに、なんでもっとPRされないのかなと思う。また、天神みかんに少しでも傷がついたら風の子みかんとして売られているが、同じ味なら安価な風の子みかんを消費者は買う。天神みかんのブランド価値を下げている気がする。

また、春菊やこまつなの生産者さんもすごく頑張っておられるが、大葉の華城春菊の全国放送が5年前にあった際、関東の方からわざわざ大葉春菊を買いたいからとJAさんに注文が入ったのに、こちらで注文しなくても関東でも大葉春菊は売っているからと断られた。その人が口コミで華城春菊や防府市のことを広めてくれたかもしれないと思うともったいない話だと感じた。せっかくブランドとして生産しているのだから、PRや販売についても工夫が必要。また、玉葱や白菜も防府市で結構栽培されていると思うので、もっとそういうところにも力を入れてPRするべき。

F委員

天神みかんを作っていたが今年でやめることにした。販売やPRの方法をJAさんに提案するが反応がなく、なかなか前に進まない。販売に力を入れているのかが分からない状況では、天神みかんの生産はやめた方が良くと判断した。提案するだけでは意味がないと思ったので、自分からメディアに仕掛けたら令和元年の年末から、3ヶ月に一度はテレビや新聞に取り上げていただけるようになった。また、PR方法について、山口県の県民性なのか、PRが下手だなと感じる。せっかく告知をしても、告知をただけで自己満足に終わってしまう。そういったこともご指摘はさせていただいたこともある。資料3に、天神みかんブランドを立ち上げて30年との発言があるが、現在生産者は7人で、私以外は70歳代。ということは、もう5年後にこのブランドはなくなっているのではと思う。

防府市自体が本当にブランドを大切にしていけるつもりがあるのであれば、まずは、今あるブランドを大切にさせていただきたいと思う。他の新しいブランドを作りましょうというのも悪くはないが、まずは、今あるブランドをしっかり認知してもらうことから始めないといけない。

会長

まず、E委員から玉葱のPRの話があったが、山口県も玉葱の生産量が多い地域なので、しっかりPRする必要がある。

また、F委員からの、PRが下手というのは耳の痛い話ですが、ご指摘ありがとうございます。天神みかんについても、私が市長になってから認知度向上などについてずっと言い続けてきたが、この度、天神みかんの贈答用の箱を作り、12月16日からうめてらすで販売を開始した。天満宮に来られた方に購入いただき、認知度の向上を図っていきたい。とにかく発想を変えないと物は売れないと思う。

生産やPRについては、市だけでは難しい面もあるので、JAさんなどと話をしながら、取り組ませていただく。

D委員

私自身は薬物の生産者ではないが、話に聞くと、JAの薬物部会は若い生産者が

多く、さらに新たな就農希望者が研修を開始して部会に加わると聞いている。非常にうまくいっている部会だと思うので、他の農産物や果樹についても、そういった事例を横展開してほしい。

会長 | どうもありがとうございます。G委員さんご意見をお願いします。

G委員 | 農産物等の販売を行っている。価格という部分がお客様にとって一番のポイントになってしまうので、美味しさや鮮度などの価格以外の価値をどのように伝えていくかということが大切。最初はなかなか伝わらないが、1年、2年と続けていくことでお客様にも広がっていくと思う。D委員の野菜も販売しているが、生産現場を見学し、農薬を使っていない理由などの生産者の思いを伝えつづけているので、そういう言った部分に共感いただき、商品価値や価格がついてきていると思っている。先ほど、生産者の声がかなかなか届かないという意見があったかと思うが、私たちがお客様に伝えて生産者への思いの共感に繋げたい。

また、防府市で育ったものを防府市で消費していくことで、商品価値も高まると思うし、価格より価値が上回れば、値段もついてくると思う。そのような善の循環が生まれれば地域にお金も回ってくると思うので、販売力の強化に努めていきたい。

会長 | 地産地消のご意見があったが、やはり、地元の農産物を地元で消費していくことが大切なことだと思う。また、生産者の顔が見える販売方法により、安心安全なものを消費者の方に食べていただくという共感が得られると思う。

H委員 | 現在の青果市場は、平成元年頃まで白銀工場の近くにあり、交通網も発展していなかったため地物野菜が高い評価を得ていた。市内の店舗も防府の市場へ仕入れに來られていたが、交通網が発展すると、安くて量がある他の市場に行かれ、防府の市場は買受人が減少している。出荷者や買受人の高齢化や、後継ぎがないということも関係していると思う。市内に直売所が増えたことも関係あるが、消費者が物を買われる感覚も昔と変わってきているのではと感じる。

話は変わって、農業のどこにコストがかかっているかということ、労力と機械。労力の共有や農機の共同購入なども、JAと市が連携して対応することも必要ではないか。

また、以前、何かの検討会に出席して提案したことがあるが、品質の高いA品は100円で売れるが、B品は半分以下の価格になってしまうので、B品を加工に回し付加価値を高めると農家さんの手取りも増えて良いのではないかと考える。

会長 | ありがとうございます。現在の青果市場ができたのが平成元年で、場所的には良い所にあって、大道の国道2号の拡幅ができればポテンシャルが高まる。いかに青果市場に物を集めてくるかが一番の課題ではないかと考える。水産市場は漁協が運営しており、今後の活性化計画も作成されたが、青果市場も役割は必ずあるので、その活性化につい

ては大きな課題と思っている。検討しているがもう少し時間がかかる。

I 委員

新規就農から4年経過した。施設できゅうりを生産している。

今日は2点お話ししたいことがある。

まだ、みなさんの口からコロナの影響が出ていないのが驚きだが、その影響がいよいよきたなという感じ。野菜の値段というのはたくさんできるときには下がり、できないときには上がり、12月は例年だったら上がるのに、今年は、市場の値段で去年の半分。質は去年より良いものができているが、直売所でも売れ行きが伸びない。買ってくれないという実感がある。それに加え、きゅうりは一定の温度を下回ると木が一気に枯れるので、温度管理をして自動で施設を暖かくするが、暖める時に使用する重油が高騰している。生産するための施設への投資はしようとは思っているが、燃料のように燃やすだけのもの、消えていくだけのものに経費はかけることはできない。先月、定植したばかりだが、この正月で値が上がらないと割に合わないので、次の6月まで生産をやめて出稼ぎに行こうという話も出ている。第1次産業では、漁業でも重油を使うので、行政のほうで何か手当していただくか制度ができればうれしい。

もう1点、販路について、防府市は人口が減少してきて、景気が良くない感じがしていたところにコロナの影響があった。直売所も元気が無く、コロナ以前から右肩下がりのように感じる。特に小野に住んでいるので市内への移動にも労力と燃料を使う。また、JAも右田に統合されて小野からなくなるということもあり、小野が地域として発展すればと思うが、なにか良い方法や話がないかなと思っている。

会長

平成20年ころにガソリンが急激に上がったこともあったが、特に施設園芸の方は、燃料費のコストが高くなるので、現状を調べたいと思う。

J 委員

前回の懇話会で、牛の床に敷く鋸くずが少なくなって困っているという話をしたが、今年は、JAの大道ライスセンターでかなり利用させてもらった。感謝している。

今、一番の問題は、牧場付近に農地を借用し飼料用米を作付けしているが、第2種農地のため、農地転用が可能で売却の話が出ている。まとまったほ場なので、大型の機械が利用しやすいが、借地のため止める術はない。堆肥をほ場に還元して牧草を栽培するという循環型でやっているが、耕作している農地がなくなるというのは痛手。

もう一点、ファーム大道さんでWCSをかなり利用させてもらっている。これに係る耕畜連携交付金制度が安定しないので、なるべく耕種農家に負担のかからないように、制度を維持してもらいたい。我が家の農地がなくなれば、ファーム大道さんのほ場で今後の飼料作物の作付けなども検討する必要がある。あのように大きなほ場なら大型機械の導入や、農業大学の学生の研修などいろいろできると思う。

会長

飼料作物の話が出たが、今は輸入物ではなく地元産を利用されているのか。

J 委員 | 私が酪農を始めたときは外国からの輸入が当たり前だったが、違和感があり、主に国産、地元産を使うようになった。先日、地元産のWC Sの成分を調べたら最高級のものできていると言われた。このような、外国産ばかりではなく、国産を使っているという取組を、消費者や、牧場に見学に来てくれる小学生、中学生、農大生、一般の方に説明している。

また、試験的に、農耕飼料として県産の子実とうもろこしの給与にチャレンジしている。このような取組も継続していきたい。

会長 | ありがとうございます。

K 委員 | 2反の農地で兼業農家をやっていたが、今年から、地元の法人に農地を預けることになり、玉葱を作ってもらえることになった。仕事しながらの草刈もかなり大変で、子供たちにもお願いしてもなかなか手伝ってくれなくなった。

先ほど、販路の話があったが、私の地域の直売所はいつもお客様が多く賑わっている。そのような店舗があるということも販路のヒントになればと思う。

また、ブランド化の話があったが、山口県がやっているはなっこりのPRなどとして盛り上げていけたらいいのかなと感じた。

会長 | ブランド化については、防府の良いイメージが全国に知れ渡るような方法も考えないといけない。

L 委員 | 森林の多面的機能を高めるために、私たちが頑張っていることについて触れたい。

まずは先ほど市長が言われたように、森林環境譲与税が昨年からは始まっている。この制度による森林整備の拡充などの支援をお願いしたいと考えている。

森林の有する多面的機能を高めるためには森林の整備拡充が重要で、一貫作業を促進することが必要。間伐、保育、搬出間伐、主伐、そして再造林を行う一貫作業をすることにより、再造林にかかるコストの低減を図ることができる。

また、木を切ったときに発生する建築には使用できない未利用材は、防府市にあるエアウォーターのバイオマス発電で使用するので、各森林組合が連携を取りながら供給に努めている。なかなか安定的な供給は難しく課題もあるが、森林を循環していく取組も行っている。

もう一点、多面的機能をいかに発揮するかということについて、荒廃した森林は非経済林であり、お金を取ることができない山になっているが、そうした山には環境譲与税を使って強度な間伐をすることによって下層木を作り、混交林を作ることによって多面的機能をより発揮できるような森林作りをする必要があると思う。

こうした2点を円滑に進めることによって、森林の有する多面的機能がより発揮し、持続的な確保ができると思う。また雇用の創出、低炭素社会の構築の貢献に繋がると思う。

森林環境譲与税を使った、一貫作業の促進、荒廃森林の混交林への誘導事業を進めていただけないかと思っている。

私たちがそうした提案はしていきたい。

会長

一貫作業の話がでたが、森林は、昔は40年で売れていたが、現在は長伐期に変わり、間伐も利用間伐という形に流れが変わってきている。

エアウォーターの件では大変お世話になっているが、しっかりと供給していただくようお願いする。

そうした中、近年、災害が多くなってきているが、山の荒廃も大きな要因の一つと思う。提案のあった強度間伐や混交林への誘導により荒廃を防ぐことが、それがまさに森林環境譲与税を活用する方策だと考える。

水田も同様であるが、災害を防ぐためには、山や農地の荒廃を防ぐということが一番大切だと思っている。

一方で、森林所有者や森林組合も利益を上げないといけないので、長伐期のものをいかに売るかとか、県産材のブランド化ということも考えないといけない。また、地元産の木を使おうというような施策も必要。

F 委員

今、森林の話があったが、西浦でみかん園をやっている。ほ場の周囲は山です。問題点として、放任園から雑木がたくさん増えて、年四分の一は木を切っている。また、竹が多い。西浦だけではなく、大道や小野のほうも多いとは思いますが。市役所で相談させていただいたが、森林ではないので制度が使えないという事だった。どうしてもみかんが日陰になるので、切らないといけないが、個人では限界がある。また、ため池からも竹が生えてきて、池の機能を果たしていないところもある。そのような竹などをチップにして肥料にするとか、パウダーなども流行っているので、加工できる施設か機械を検討していただけると非常に助かる。

また、先ほど市長もおっしゃっていたが、有害鳥獣による被害で、皆様もイノシシなどで苦労されていると思う。西浦では幸いイノシシはいないが、アライグマの被害が大きい。市役所でわなを借りて捕まえたりしている。先日そのわなにカラスが捕まった。西浦では渡りガラスがとても多く、夕方になると空が真っ暗になる。このカラスの被害も、年100万円くらいにはなると思う。捕まえたカラスを市役所に持って行っても、カラスは処分の対象外なので、また山に放すという。どうしたら良いのだろうか。カラス対策を色々調べてはみるが、畑に糸を張るという対処法は山では無理。また、カラス用の大きなわながあるらしいが、許可がいるという事で難しい。どうか、検討していただけたらと思う。

会長

一つ目の竹の話題ですが、竹を使った発電所のほうで処理できることもあるし、現状を見ながらどういうことができるのか、また機械の話もあったが、制度もいろいろあると思うので、検討させてほしい。

カラスの件についても有害鳥獣と一緒に思うので、いろいろなところで相談させてもらいながら、現地も見にいかせてもらう。

H委員

ふるさと納税の件だが、返礼品に、防府産の農産物などを検討いただきたい。納税が増えれば防府市全体の発展にもつながるし、農産物の消費にもつながる。ぜひ、前向きに取り組んでいただきたい。

会長

今年度、返礼品については見直しを行ったところ。また、今年度は妊産婦さんに対して年3回、地元の農水産物をお届けする事業を開始した。生産者の励みにもつながると思うので、市内外の皆様にしっかり防府の農水産物のPRを行い、認知度の向上を図りたい。

会長

本日は多くの意見をいただいたが、持ち帰り検討させていただく。今回、新たに気づいたこともあるので、そういったものはしっかり検討して、可能なものは施策に反映させていきたいと思う。

また、今後の農林業施策に役立てていきたいと思っている。

個別にご意見を聞くこともあると思うので、防府市の農林業がしっかりと前に進むためにも、皆様の協力をお願いする。

皆様、本日は、ありがとうございました。

閉会